

漢詩「酔余口号」

吉村幸博

馬上少年過

(ばじょうのしょうねんはすぎ)

世平白髪多

(よはたいらかにしてはくはつおおし)

残軀天所赦

(ざんくはてんのゆるすところなれば)

不樂是如何

(たのしまずしてこれいかんせん)

馬に跨がり戦場を駆け回った遠き青年時代。
今や世は 泰平となって白髪の生える年齢になってしまった。
余生 は天が与えてくれるもの。
せいぜい楽しませずにはられない。

伊達政宗が晩年に詠ったとして有名な漢詩の「酔余口号」である。

ヘルメットをかぶり休む暇なく現場を駆け回った遠き青春時代。
今や仕事から離れ白髪の生える年齢になってしまった。余生 は天が与えてくれたもの。
せめてもの元気なうちに好きなことをして楽しまなくては・・・

